全国鉄構工業青年部連合会 平成29年度 第2回理事会

◎ 日時:平成29年7月14日(金)10:30~

◎ 場所:東京鉄構工業協同組合 事務局

1:開 会

○会長あいさつ (稲森会長)

北海道大会ありがとうございました。

成澤さんをはじめブロックが一致団結した良い大会でした。次の広島大会に

繋いで行きたいと思います。

今日はオブザーブで全青会前会長の尾熊氏がお越しになりますので交流を深めて頂きたいと思います。

昨日(7/13) 全構協と各都道府県の会長との意見交換会が行われ、建設的な会議となり今後の全青会の見通しが見えた事業だと思います。平日開催ですが時間の許す限り宜しくお願い致します。

〇出席者確認 稲森、大塚、伊藤、池田、成澤(克)、小林、小泉、中尾、守谷、渡邉、成澤(則)、中原 ※ 井上 中辻 2名欠席

○議事録作成 中原・小泉

- ○前回の議事録確認 伊藤氏より
- ・欠陥サンプルの件ついて (現在の破損品の扱いと今後の対応について)
- ・次回全国大会の広島大会について
- ・委員会活動について
- ・今後の理事会スケジュールついて
- ・全国大会総会のリハーサルついて

※破断したサンプルについて、液体ガラスを塗ればどうか? (劣化しない)

○全国大会の報告 北海道の成澤理事から

5月20日開催 総会主席者282人 懇親会出席者350名超え

分科会A、Bの報告書が提出されていますので別紙添付致します。

また、報告書を各ブロック、各都道府県にも配信し活用して欲しいと報告された。

締めくくりとして全国大会を通してメンバーの結束力が強まったことを実感した。

2:協議事項

① 全構協と各都道府県会長との意見交換会7月13日(13:00~16:00)について



全青会からは1名出席 稲森会長

各都道府県会長の中に理事である成澤・渡邉の2名が代表及び代理で出席

稲森会長から

今回初めての全構協と各都道府県会長との意見交換会が開催されました。出席率もかなり高く関心度も非常に高い事を実感しました。また、今後の全青会の運営に於いても参照となる場になりました。この意見交換会には各都道府県から事前に意見要望アンケートが配布されそのアンケートをもとに会が構成されていました。47都道府県の中で未解答は熊本・千葉以外は解答(回収率9割)していました。

(1)各都道府県の部会活動にあたり悩みはないのかの問いに、

- ・人数不足や予算がない
- ・各ブロックの任意での参加で年齢に該当するものがいない、幹部や後継者がいない
- ・ハイグレードに青年部会員がいない(会員企業に青年部に該当する方がいたら積極的に参加してほしい)
- ・親会からも青年部活動を推進して欲しい(今後の業界に為にも)
- ・人がいないと活動ができない活性化することで任意での推奨が欲しい

※全構協からは初めてこの様な意見を拝聴し今後、青年部との向き合い方も少し考えて行こうではという雰囲気となったのではと考える。

(2)全構協に対する意見や要望に、

- ・全青会の立ち位置をもとに戻して欲しい
- ・冠がないと、意識的に運営が進まないブロックや県があり、親会からも不信感の声が出ている
- ・多くの会長が現状復帰を望んでいる
- ・いつ返してくれるのか?大阪が返還の時期を確認した。(全青会の今期の状況をみて検討をするとの返答)

※今回、冠や助成金の廃止に至った経緯は概ね説明されたが、事細かな説明がなされなかったが過去の事を振り返るのではなく建設的に前を向いて行動していきましょうと説明がなされました。

- ・組合の為になる事業を青年部が活動して欲しい。
- ・青年部には交流が必要である。

(3)全青会活動への要望は

※11月の全構協の意見交換会が開催するにあたり解答は割愛しました。

上記にあたり、10月頃全青会の理事とBC長と意見交換会を開催するべきである。

(全青会では10月21日に京都にて近畿ブロックの協力のもとBC長との意見交換会を開催する事となりました。)

(4)各県親会に対して

- ※関係性が良好な実態が見えているので割愛しました。
- ※親会と青年部会を友好に開催されている現状

当日の質問で各都道府県8割親会に対して青年部会が属している。解答

※冠をとったことの発端が不明であることに対して

- ・全国大会に相応しくない事業を見受けられた(神戸大会のサンバが原因?)
- 関東BCの事業が相応しくない(女性目線からの講演会から講師が元○V女優であった)
- その他

上記の内容を反省し今後の青年部の在り方を考えるべきだ。

親会も青年部との交流をしっかり持つべきだと 意見がありました。

○渡辺理事(四国)から

各都道府県部会長が各県親会との組織的な関係性に不透明な状況もあるのでこの機に再確認をしてみる必要がないかと提案された。

稲森会長と米森会長との全青会に対する今回の問題についての話にはニュアンス的に違いがあるが現状をふまえて過去を振り返るのではなく前に進むべきであると報告された。

全構協からの事業に対して10万(各県)の予算は4月から翌年の3月までの事業に対応できるとの事であった。 ※予算の申請書は各会長に配布された。(雛形は親会事務局にWord形式がある)

○成澤理事(北海道)から

村山氏から倫理観のある活動を行えば全青会に対して冠の返還をすると明言されており、真摯に我々も対応をすべきではと考える。

各地方から、全構協の全青会に対する今回までの対処に少し行き過ぎた対応ではとの苦言があったのでは? と考える。(一意見)

米森会長から全青会の発足理由から、冠を外した理由につても話された。

稲森会長から、去年全青会の活動に対し停滞していたことを反省して、今後の建設的に業界のことを第一に考え やるべきことを考えて行きたいと締めくくられた。

※全青会から8月中に申請書のサンプルを配布(雛形として)

- 例 北海道の7月20日働き方改革その1の講習会で申請書を作る予定 (各都道府県、親会の理事長の承認があれば、申請可能である)
- ② 各ブロックの報告・告知等について(市況の総括)
- ○北海道 BC 6月からは全道的に一気に加工・現場が始まり、年内いっぱい続く予定です。 来年の見積も多く出てきて、ホテル案件や再開発案件などの大型物件を来年抱えている。
- ○東北BC ブロックの総会は6月13日に開催された。

見積は県によってバラつきあり、単価は下降気味である。 JSCAとの研修会も事業予定があります。

8月4日の東北サミット開催にあたり、50~60名の参加を予定しています。

○関東 BC 各県総会終了し、長野開催予定の研修事業の日程調整中である。

各県バラバラであり、首都圏の物件は多く、地方の物件が減少している。夏から秋にかけて期待している状態である。どの県も職人不足に悩んでいる。また、物件の図面、加工の変更・工期の遅れに悩まされている。

※オリンピック案件、直接の仕事よりオリンピックにかかわる?仕事の案件がある 長野県、群馬県のファブが8割の首都圏工事をしている状態。

鳶工の社会保険関連により、人件費高騰気味 (全体工事 1.5%計上 法定福利費)

○北陸 BC ブロックの総会 6 月 1 0 日に開催

県内物件は変化がない状態、非常に薄い県もある。それに釣られて単価にも不安がある。 県外(関東物件)は大型物件の話は出ている状態。

○中部 BC ブロックの総会は7月1日に開催 来年度以降の理事の中尾さん→金原さんに移行に決定 全国理事の選出方法を話し合い、1期2年任期としBC長の兼任は困難なので、同等の権限を もつものと決定。

全国大会開催予定より会場の選定をしている。会場予算で概算予算800万より4月開催より5月開催も案に入れる。会場は愛知県で2019年5月上旬開催に希望する。

合同研修会の予定、MOT講習が11月17.18日開催でブロック会議18.19日開催予定 市況報告、仕事量は確保しているが収益性は横ばいである、材料代が高騰の部分単価に転嫁して いる状態

静岡はオリンピック案件の仕事があり

JASC中部地区で8月26日に合同研修会を静岡で開催と、メッキ工場見学を予定

※2020年の全国大会を関東から、近畿開催に変更予定

○近畿 BC 各県バラつきがあるが、奈良県内は忙しく、和歌山の H ランクは商社物件が多く 大阪・奈良の合同勉強会を開催予定です。

2月23日に1泊2日で滋賀県の工場見学会を予定している。見学会の懇親会にて各県の事業報告会を予定。

○中国 BC ブロックの総会は 6 月 17 日に広島にて開催。

広島は活発に活動をしている親会とも合同で事業をしている状態です。

岡山は7月にエンドタブ講習会を開催した。市況報告、各県バラつきはある、変化は無い感じである。

関東物件の話があがっている。

※鳥取県の復会は?ブロックのオブザーバーで参加しているのが現状で、予算や親会のメンバー が少ないのでまだ不安要素がある。

〇四国 BC ブロックの総会は 6 月 10 日に香川で開催されました。

ブロックの7月5日ネット会議・10月以降に他ブロックの事業開催を予定。

9月1,2日にMOT講習を開催予定。香川県ではJSCAとの勉強会予定。

市況報告は手持ちとして80~100% M以上は年内確保している。RグレードはH.Mファブの手伝いで賄う状態である。単価は横ばいから下降気味状態。

○九州 BC ブロックの総会は6月24日に開催し歌手のAIさんの母に講演依頼してもいました。

6月30日にMOT講習会を沖縄で開催致しました。

9月2,3日で長崎研修事業を開催予定、鹿児島と宮崎で9月16,17日合同研修会を予定しております。

10月28,29日沖縄で事業の開催予定です。

また、各地区夏のイベントを開催予定

*福岡、大分県の大雨災害の支援を親会を中心に被害状況のとりまとめを行っている。災害によりブロックの懇親的な事業の自粛などもある。

市況報告は、主要な都市は多忙を極めており2年先まで仕事見通しがあるところもある。ただ 各地方の仕事量は低迷しており、現状でも青年部会間で仕事を回している谷間調整を行っている 状況が見受けられる。

単価は横ばい傾向であるが、H以上は大型案件や関東案件があり高値で推移しているがその 他グレードでは仕事量低迷による単価下落も発生しているという2極が見受けられる状態です。

※ 次年度全国大会の進捗状況について 実行委員長 尾熊氏から

日程:平成30年4月21日(土) 会場:広島県 広島国際会議場に協議審議し日程・会場は承認されました。 大会テーマ・収支予算書(案)を協議致しました。※運営スタッフに鳥取県も参加

協賛企業を募る件、企業の協賛ブースの件について協議しました。(会場の使用条件に)

会長会議の時間を長くとりたいと声が出ている。会長会議で業界の夢や、技術的に研鑽し県に持ってかえる資料や情報が欲しい、という声がある。全青会として内容をこれからの協議して行きテーマ・タイムスケジュール調整を行う。全青会としては、広島大会は会長会議の時間を4時間程度とる方向です。それによって会場の予定の変更を検討する。

通常総会後に講演会を予定。広島工業大学の清水教授を依頼している。清水教授は元ゼネコンの方で、ファブ側(製作側)の視点で基調講演を行ってもらう。

あと、全国大会の予算はやはり厳しい状態です。全青会の理事会・昼食等は全青会の予算で賄う。との事で承認されました。

3:委員会討議

総務委員会 会計報告で入金状況報告しました。各BCの研修補助金50,000円支出予定。各BCの会計の振込先等を確認して欲しい。11月7日全青会とBC長と全構協との研修会について、10月21日13:00から事前会議を近畿(京都)で開催予定。

委員会① 鉄骨110番では案内文作成し、返信先を小泉さんに変更している。7月中に配布し8月末締め切りです。修正して3役にて承認し、配布予定。その中に溶接欠陥サンプルの貸し出し情報の掲載。貸出案内文・貸出事例を記載する予定。

全国組織を利用して、チップ・ノズルが換金産廃収集する。換金し寄付する予定。全会員には9月の理事会に案内文を協議審議し承認後9月中に配信予定。これから『技術ワーキンググループ』改名しました。 月1回、ネット会議実施します。

委員会② 議事録内容はBC長に配布するが、各都道府県まで配布されていないのではないか、という意見があったので、全青会からメーリングリストを利用してBC長には、配布情報を送信して全会長に直接配信する方向性である。ホームページには、情報PDFの添付は理事で掲載できる。バナー広告は10社程度掲載できるが必要性の有無・収益の有無を検討中。ネット会議を多用して協議していく。

全国大会のBC発表・表彰はどうするのかをこれから協議をしていく。

その他

日鐵住金建材よりデッキ材の商材説明がなされた。

全青会の次年度の人事について各BCで一名選出。次回理事会で次年度の3役執行部案を提示する。また、9月の理事会にて次年度理事の推薦について各ブロックに提出する資料の議決を行い速やかに配布を行う予定。

3:報告事項

次回理事会 平成29年9月9日(土)13:00から東京開催

オブザーバー参加より

鋼構造ジャーナル 田中氏

全国の役員は青年部を応援しています。現状は中々、大型物件はあるが、中小物件に伸び悩みがあり、単価も減少傾向にあります。来年春以降には仕事はあるだろう。と期待を寄せております。

松田 元全青会理事

昨日の全構協の意見交換会について、全青会のこれからの運営を労って頂きました。

以上



